

# 音楽のよさや美しさを感じ取る力が育つ音楽科学習の在り方

—音楽の諸要素を軸とした題材展開の工夫—

音楽科研究会議

近清 えり子<sup>1</sup>

西田 裕子<sup>2</sup>

鈴木 美代<sup>3</sup>

内田 道子<sup>4</sup>

## 要 約

昨年7月、中央教育審議会の審議過程で、「感性を働かせて音や音楽を感じ取り、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成する。」と提言された。この提言からわかるように、子どもの感性の育成の一端を担うために、感じ取る力を育てることが音楽科教育に期待されている。

しかし、これまでの授業を振り返ると、曲をきれいに仕上げるために、表現の技能を高めることを主眼においた学習が進められることがあった。表現の技能を高めることは大切な学習の一つではあるが、感じ取る力を育てる学習が十分ではなかったことが、本研究会議で課題として挙げられた。

そこで、ただ単に音楽をよいと感じるだけではなく、その曲の何に魅力を感じるのか、音楽のよさや美しさがどこから生み出されているのかを聴いたり、感じたりする学習の積み重ねをすることが、感じ取る力を育てると考え研究を行った。その具体的な手立てとして、音楽の諸要素に着目し、音楽への主体的なかかわりを大切にしたい題材展開を構想し、実践した。

実践により、自分にとっての音楽のよさや美しさを一人一人がそれぞれの感じ方で味わおうとする姿がみられるようになった。これが、今後の学習活動や日常生活で音楽を楽しもうとする姿につながり、さらに生涯にわたって音楽に親しむ態度をはぐくむことにもつながると期待される。

このように、音楽の諸要素を軸とした題材展開を工夫することが、感じ取る力を育て、音楽を生涯楽しむ態度をはぐくむ有効な手立てであることが明確になった。

キーワード：感じ取る力、主体的なかかわり、音楽の諸要素、題材展開

## 目 次

I 主題設定の理由・・・・・・・・・・	84	4 研究の実際Ⅱ・・・・・・・・・・	91
1 音楽科教育に求められていること	84	(1) 題材の計画・・・・・・・・・・	91
2 感じ取る力を育てることの意義	84	(2) 授業の実際・・・・・・・・・・	91
3 音楽の諸要素と題材展開について	84	(3) 授業の分析・・・・・・・・・・	93
II 研究の内容・・・・・・・・・・	85	5 研究の実際Ⅲ・・・・・・・・・・	94
1 研究の基本構想・・・・・・・・・・	85	(1) 題材の計画・・・・・・・・・・	94
(1) 課題の分析・整理・・・・・・・・	85	(2) 授業の実際・・・・・・・・・・	94
(2) 検証授業について・・・・・・・・	85	(3) 授業の分析・・・・・・・・・・	95
(3) 研究のまとめについて	86	III 研究のまとめ・・・・・・・・・・	96
2 題材展開の構想・・・・・・・・・・	86	1 授業から見てきたこと	96
(1) 題材の計画・・・・・・・・・・	86	(1) 感じ取る力が育つ題材展開	96
(2) 題材展開と子どもの姿	86	(2) 評価とのつながり	97
(3) 教師のかかわり	87	2 今後の課題	98
3 研究の実際Ⅰ・・・・・・・・・・	87	(1) 効果的な教材の開発	98
(1) 題材の計画・・・・・・・・・・	87	(2) 小・中9年間を見通した指導計画	98
(2) 授業の実際・・・・・・・・・・	88	参考文献・・・・・・・・・・	98
(3) 授業の分析・・・・・・・・・・	90	指導助言者・・・・・・・・・・	98

<sup>1</sup> 川崎市立坂戸小学校教諭（長期研修員）

<sup>2</sup> 川崎市立高津小学校教諭（研修員）

<sup>3</sup> 川崎市立中野島中学校教諭（研修員）

<sup>4</sup> 川崎市立御幸中学校教諭（研修員）

## I 主題設定の理由

### 1 音楽科教育に求められていること

中央教育審議会の審議過程で昨年7月に「音楽科、芸術科の現状と課題、改善の方向性（検討素案）」が示された。検討素案に記された「改善の方向性」の中で「表現や鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情をもち、感性を働かせて音や音楽を感じ取り、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成し、多様な音楽及び音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくみ、豊かな情操を養う指導が一層充実して行われるようにする。」と提言された。

この提言からわかるように、感性の育成の一端を担うために、子どもの感じ取る力をはぐくむ音楽科学習の充実が期待されているといえる。

### 2 感じ取る力を育てることの意義

子どもの感性の育成に視点をおいた学習について、高須一は「子どもの感性を豊かにすることは、ただ単により音楽に触れることでは実現するものではない。その音楽のよさはどこにあるのかを探り、自分たちで考え、判断したり、見つけ出したりするという学びによって実現するものである。」<sup>1)</sup>と述べている。

これまでの授業を振り返ると、曲をきれいに仕上げるために、表現の技能を高めることを主眼においた学習が進められることがあった。表現の技能を高めることは大切な学習の一つではあるが、感じ取る力を育てる学習が十分ではなかったことが、本研究会議で課題として挙げられた。

そこで、本研究会議では、ただ単に音楽をよいと感じるだけでなく、その曲の何に魅力を感じるのか、音楽のよさがどこから生み出されているのかを聴いたり、感じたりする学習の積み重ねをすることが、感じ取る力を育てるととらえた。さらに、感じ取ったことを表現し、誰かに受け入れられたとき、もっと音楽を楽しもうとする意欲につながり、それが生涯にわたって、音楽に親しむ態度につながっていくことを期待している。このような学習の積み重ねにより、音楽のよさや美しさを一人一人がそれぞれの感じ方で味わえるようになることが本研究会議でめざしている子どもの姿であり、感性を育てることにもつながると考え、次のように研究主題を設定した。

音楽のよさや美しさを感じ取る力が育つ音楽科学習の在り方

### 3 音楽の諸要素と題材展開について

音楽の学びについて、高須一は「音楽を形づくっているさまざまな要素を理解すること。これらの要素の働きやかかわり合いを知り、そして自己の表現の仕方に生かしたり音楽を鑑賞する手がかりにしたる力が音楽科学習における学びになる」<sup>2)</sup>と述べている。このことから、音楽科学習において、音楽の諸要素の働きやかかわり合いを知ることが、重要な学びであるとうかがえる。

そこで、本研究会議では、この音楽の諸要素のはたらきやかかわりを知るためには、音楽の諸要素そのものに気づき、知ることが大切だと考えた。そして、題材で一番感じ取ってほしい音楽の諸要素を軸として題材の展開を考えることとした。ここでいう音楽の諸要素とは、中学校学習指導要領解説に示されている、音色、リズム、旋律、音の重なりや和声、形式、速度、強弱、雰囲気、曲想などである。

また、感覚の働きによって音や音楽を感じ取る過程には、聴覚を通して感覚的に「感じる」ことから

1) 高須一「子どもにとって学びがいのある音楽科授業を創造する」音楽鑑賞教育 11月号

財団法人音楽鑑賞教育振興会 2006年 p.8

2) 前掲書<sup>1)</sup> p.8

始まり、次に音や音楽を「知覚」する段階、そして雰囲気や特質などを「感じ取る」ことができる段階があると中学校学習指導要領解説に示されている。

そこで、この段階を参考にして題材展開を考えるとともに、音楽科の重要な学びである音楽の諸要素を題材の軸とすることが、本研究主題を具現化する有効的な手立てだと考え、副主題を次のように設定した。

## 音楽の諸要素を軸とした題材展開の工夫

### II 研究の内容

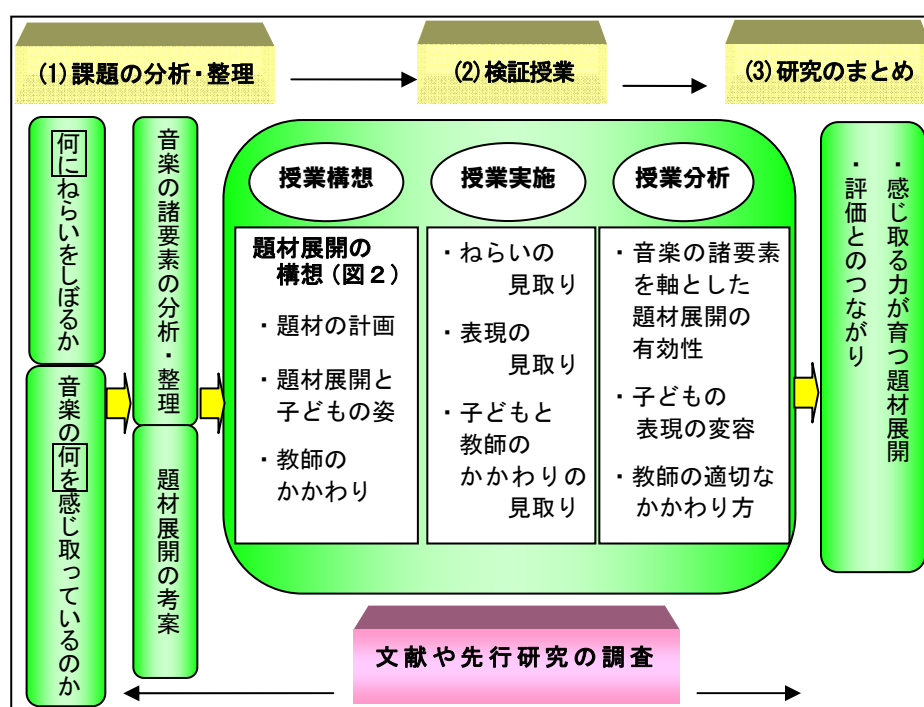
#### 1 研究の基本構想

研究主題並びに副主題に基づき、研究構想図（図1）に沿って研究を進めた。

##### (1) 課題の分析・整理

- ・ 何にねらいをしぼって学習を進めるとよいのか
- ・ 子どもたちが音楽の何を感じ取って学習を進めているか

以上のことが研究会議の課題として挙げられた。本研究会議では「何」というところに着目し、それが音楽の諸要素であるにとらえた。そのため、音楽の諸要素についての分析と整理を行い、感じ取る力を育てる題材展開を考案した。



〈図1〉研究構想図

##### (2) 検証授業について

###### ①授業の構想

題材展開の構想図（図2）をもとに、題材の計画、題材展開と子どもの姿、教師のかかわりについて検討した。

###### ②授業の実施

次の視点で授業を行い、学習過程に沿って見取りをした。

- ・ 音楽の諸要素を軸として、題材のねらいに沿った活動になっているかの見取り
- ・ 子どもの表現(表情、記述、音楽表現など)の見取り
- ・ 子どもと教師のかかわりを見取り

###### ③授業の分析

授業での見取りをもとに、次の視点で分析を行った。

- ・ 音楽の諸要素を軸とした題材展開の有効性
- ・ 子どもの表現(表情、記述、音楽表現など)の変容
- ・ 教師の適切なかかわり方

### (3) 研究のまとめについて

研究全体を通して見えてきたことを、次の視点でまとめた。

- ・感じ取る力が育つ題材展開
- ・評価とのつながり

## 2 題材展開の構想

題材展開の構想図（図2）をもとに検証授業を計画し、実施した。

### (1) 題材の計画

#### ①ねらいの焦点化

研究会議の課題に沿って、題材のねらいを焦点化し、この題材で一番感じ取ってほしい音楽の諸要素の中から、軸になるものを決める。

#### ②教材選択と楽曲分析

軸となる音楽の諸要素が曲の中でどのように働いているか、それがわかりやすく子どもたちに伝わる曲なのか、様々な角度から分析し、どの場面で、どのような方法で子どもたちに提示するか考える。

また、題材の流れや子どもの思いが途切れないように、教材の組み合わせ、教材同士の間連などを考慮した上で選択をする。

#### ③ワークシートの作成

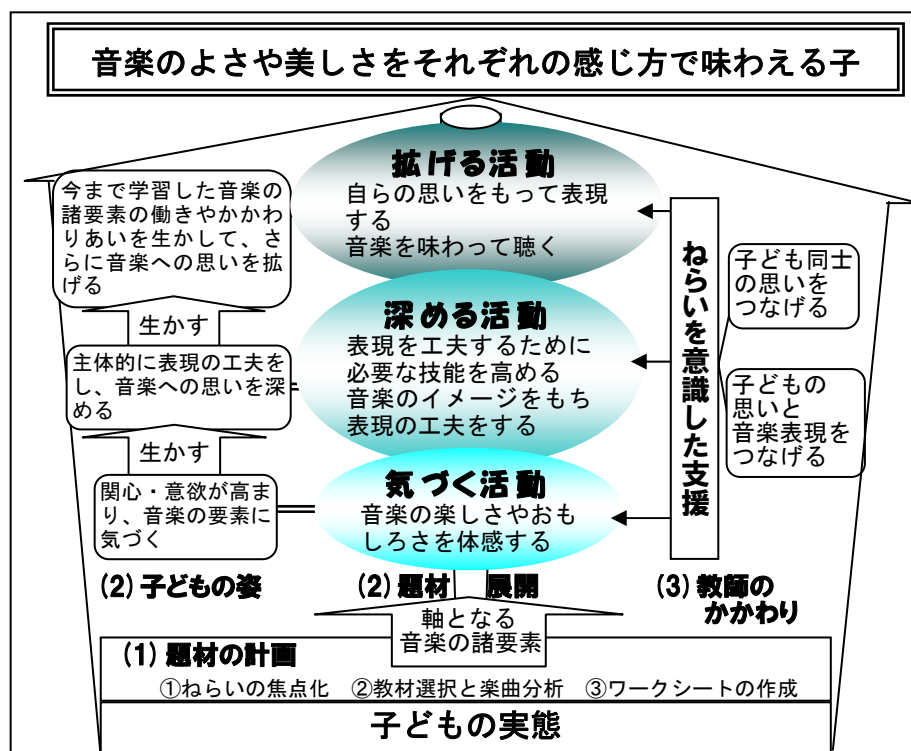
題材でねらっている観点が明確になるように設問を考える。さらに、ねらいに沿った活動になるように記入のポイントをヒントとして示す。一枚のワークシートから、学習の見通しがもてるように工夫する。そのため、感想を書くだけのものではなく、次の学習に生かせる設問を考えて作成する。

### (2) 題材展開と子どもの姿

段階的に感じ取る力を育て、高めるために、題材全体を大きく三つ（気づく・深める・拡げる）の活動に分けた。この三つの活動は、独立するものではなく、音楽の諸要素が軸となってつながり合い、関連し合うことで、感じ取る力を育てる有効的な題材展開だと考えた。

#### ①気づく活動

分析的に音楽の諸要素をとらえるのではなく、音遊び、リズム遊び、身体表現などの創造的な活動や日常生活で聴いている音楽や、身の回りの音などに耳を傾ける活動などを通して、音楽の楽しさやおもしろさを体感し、軸となる音楽の諸要素に自然と気づく活動を計画する。子どもの実態を知り、より興味が高まる活動を考え、関心・意欲を高める。なお、この活動は日常生活と音楽科学習とを結ぶ重要な活動の一つだと考えた。



〈図2〉 題材展開の構想図

## ②深める活動

表現、鑑賞活動で曲の雰囲気を感じ取ったり、基礎的な技能を身につけたりして、教材に対するイメージや思いをもつ。自分の思いや意図が表れるような表現を工夫したり、表現を工夫するために必要な技能を高めたりして、音楽への思いを深める。軸となる音楽の諸要素を意識した活動でありながら、子どもの表現（ワークシートの記述や発言）を生かし、主体的に音楽にかかわる活動を計画する。

## ③広げる活動

気づく、深める活動で感じ取った音楽の諸要素の働きやかかわりあいを生かして、さらに表現を工夫したり、感じ取ったことを手がかりにして鑑賞し、味わって聴いたりする。幅広く音楽に触れ、音楽に対する思いを広げる活動を計画する。なお、この活動は、今後の学習や日常生活にもつながる重要な活動の一つだと考えた。

### （3）教師のかかわり

#### ①子ども同士の思いをつなげる支援

授業の初めに、前時に記述したワークシートの中から、本時の課題に即した子どもの記述を取り上げて全体に投げかける。この時、教師が軸となる音楽の諸要素を意識して、子どもの記述や発言をつなげることで、子どもたちの音や音楽に対するイメージや思いを共有させ、ふくらませる手助けとする。

#### ②子どもの思いと音楽表現をつなげる支援

子どもが感じ取ったことを発言や記述などから取り上げ、みんながわかる音楽的な言葉（はずんだ感じ、なめらかな感じなど）に置き換え、表現に生かせるようにする。また、楽譜を見て音楽用語（クレッシェンド、フォルテなど）の理解とつなげるようにする。音楽を聴き合ったり、話し合ったりするときに、コミュニケーションの手段の一つとして、子どもたちが音楽的な言葉や音楽用語を活用できるように支援する。

## 3 研究の実際Ⅰ（重なり合う音の美しさを味わおう 小学校5年生）

題材目標：いろいろな音や楽器の音色の重なりによる美しさや豊かさを感じ取って、表現の工夫をする。

音の重なりによる響きの変化を感じ取り、それらを生かして表現する。

### （1）題材の計画

#### ①題材の軸となる音楽の諸要素

題材目標からねらいを焦点化し、音楽の諸要素の中から「音の重なり」を軸とした題材展開を考えた。

#### ②教材の選択

○気づく活動・・・トーンチャイムを使っての音遊び（表現）

○深める活動・・・「静かにねむれ」「それは地球」「威風堂々第1番（器楽）」（表現）

「静かにねむれ」は、歌による旋律に楽器による和音伴奏と低音伴奏が重ねられた曲で、旋律の動きとそれに合わせられた和音の響きの変化を感じ取ることができる。

「それは地球」は、前半斉唱、後半3部合唱で構成されている曲で、自分たちの声で和音の響きをつくり出せる曲である。

「威風堂々第1番（器楽）」は楽器の音色の重なりによる美しい響きを感じ取ることができる曲である。それぞれの曲の特徴を生かして歌・楽器による音の重なりを感じてほしいと考えた。

○広げる活動・・・「威風堂々第1番」（鑑賞）

自分たちが合奏で演奏した旋律が、繰り返し演奏される曲である。そのたびに楽器の構成が変わり、それにより曲全体の雰囲気が変わることについてほしいと考えた。合奏を行った後に鑑賞することで、少人数の合奏とオーケストラの演奏との違いを感じ取り、音楽の世界を広げるきっかけとなることを期待する。

(2) 授業の実際

① 題材展開の概要

時	主な学習活動 (「音の重なり」を意識した活動)	◎教師の支援 ◇子どもの姿 音楽の諸要素の拡がり	教材
1 (具体の実践)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トーンチャイムを自由に鳴らす</li> <li>○順番にトーンチャイムの音を重ねる</li> <li>○同時にトーンチャイムの音を重ねる</li> <li>○10本に減らして音を重ねる</li> <li>○同じ色のシールが貼ってある人が音を重ねる</li> <li>○和音の説明をする</li> <li>○ピアノで和音進行を弾く (I IV I V<sub>7</sub> I)</li> <li>○ワークシートに記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自由に鳴らし、楽器に親しみを持たせるとともにやわらかい音色にも着目させる</li> <li>◇音の重なりを体感することができた</li> <li>◎前もってI (赤) IV (青) V (黄) V<sub>7</sub> (緑) のシールをトーンチャイムに貼っておく</li> <li>◇I、IV、V、V<sub>7</sub>の和音の音の重なりを体感した</li> <li>◎体感した和音の響きを音楽用語につなげる</li> <li>◇和音進行による響きの変化を体感した</li> </ul>	(音遊び)
2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和音の名称と響きをトーンチャイムで確認</li> <li>○トーンチャイムで「静かにねむれ」の和音伴奏を演奏する</li> <li>○「静かにねむれ」の曲をイメージした後、歌唱を練習する</li> <li>○オルガンで低音を重ねる</li> <li>○トーンチャイムで和音伴奏を重ねる</li> <li>○旋律・和音・低音を重ねる</li> <li>○歌うときにどんなことに気をつけるか話し合う</li> <li>○2グループにわかれて、歌・和音・低音を重ねる練習をする</li> <li>○発表・感想を言う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎和音の響きと音楽用語をつなげる</li> <li>◇和音から曲をイメージした</li> <li>◇トーンチャイムのやさしい音色に重ねて、やさしい声で歌った</li> <li>◇旋律を歌いながら、低音の響きを感じ取れた</li> <li>◇旋律を歌いながら、和音伴奏の響きを感じ取れた</li> <li>◇和音伴奏、低音の音の重なりを感じながら歌えた</li> <li>◎前時の最後に書いたワークシートを基に話し合いを進める</li> <li>◇グループごとに練習し、音の重なりを感じ取れた</li> </ul>	静かにねむれ
4・5・6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トーンチャイムで「それは地球」の和音伴奏を演奏する</li> <li>○「それは地球」の曲をイメージし、練習する</li> <li>○3部合唱の部分でトーンチャイムで演奏する</li> <li>○3パートに分かれ、声でIの和音を重ねる</li> <li>○パートごとにI IV V V<sub>7</sub> Iの音取りをする</li> <li>○I IV V V<sub>7</sub> Iで3部の響きを練習する</li> <li>○録音する</li> <li>○自分たちの声を振り返る</li> <li>○「それは地球」の各パートの音取りをする</li> <li>○3部合唱をする</li> <li>○録音する</li> <li>○自分たちの声を振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇和音から曲をイメージした</li> <li>◇楽譜から3部合唱であることに気づいた</li> <li>◇3部合唱の音の重なりを感じ取れた</li> <li>◎3部合唱が初めてなので、簡単な和音進行での重なりから進める</li> <li>◇音は3つに分かれているが、響きのある音の重なりになっていないことに気づいた</li> <li>◎他のパートを意識するように声をかける</li> <li>◇自分たちの歌声に関心を示していた</li> <li>◇全体のバランスや強弱に気づいた</li> </ul>	それは地球
7・8・9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ピアノで弾いた和音伴奏から曲名を当てる (「静かにねむれ」「それは地球」)</li> <li>○「威風堂々」の旋律と和音伴奏を演奏、曲名を当てる</li> <li>○「威風堂々」についての説明をする</li> <li>○旋律を階名唱する</li> <li>○リコーダーの個人練習をする</li> <li>○ピアノの和音伴奏にリコーダーを重ねる</li> <li>○リコーダー以外の楽器を分担する</li> <li>○演奏するときに気をつけることを話し合う</li> <li>○リコーダーとそれ以外の楽器の練習をする</li> <li>○合わせるときに気をつけることを話し合う</li> <li>○合奏をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇和音伴奏から曲をイメージした</li> <li>◇旋律と和音伴奏から曲をイメージした</li> <li>◎作曲者、歴史的背景などを説明する</li> <li>◎拡大譜を用意する</li> <li>◎リコーダーの音色を意識させる</li> <li>◇旋律と和音伴奏との重なりを感じ取れた</li> <li>◎前時に記入したワークシートや音楽的な用語を記入したカードを効果的に使う</li> <li>◇話し合いを生かし、音色、バランスなどに気をつけて合わせていた</li> </ul>	威風堂々第一番(器楽)
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合奏をするための工夫を確認する</li> <li>○合奏をする</li> <li>○録音をする</li> <li>○自分たちの演奏を振り返る</li> <li>○オーケストラ演奏による「威風堂々」の鑑賞する</li> <li>○自分たちの演奏と同じ部分のみを鑑賞する</li> <li>○演奏されるたびに变化する曲の雰囲気を発表する</li> <li>○全曲通して鑑賞しワークシートに記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎前時に書いたワークシートを取り上げ、それをもとに話し合いを進める</li> <li>◇話し合いを生かし、音色、バランス、速さ、強弱などに気をつけて、合奏していた</li> <li>◇音の重なりがどうか、気をつけながら聴いていた</li> <li>◎自分たちが演奏した旋律が出てきたら手を挙げさせる</li> <li>◇身体で拍を取ったり、指揮をしたりしながら聴いていた</li> <li>◇楽器の重なりの変化による曲全体の雰囲気の違いを感じ取っていた</li> </ul>	威風堂々第一番(鑑賞)

②具体の実践（気づく活動）

主な活動	教師のかかわり		子どもの表現	
	T 教師の発問		C 子どもの発言	W ワークシートの記述
○トーンチャイムの説明 ○トーンチャイムを自由に鳴らす	T1	何が入っているでしょう。	C1	オー。何それ。
	T2	自由に音を出してみよう？	C2	見たことない。
	T3	おもしろい楽器だね。鳴らしてからさわるとびりびりするんだって。それから、鳴らしてから耳に近づけると不思議な感じがするって気がついた人もいたよ。	C3	すごい！きれい！
			C4	魔法の音だ！
			♪表現の変容	
			♪1 早くやりたいという気持ちが表情や態度に表れている。	
			♪2 よい音の出し方、楽器の構造など友だちと試している。	
			♪3 いろいろ試しながら、楽しんでいる。	
○順番に 18 本（クラスの半分）の音を重ねる	T4	何か感じたことはありますか？	C5	高い音が聴こえてきた。
			C6	最初の方は、澄んでいてだんだん音が重なってくると混ざった感じになる。
			C7	やっていくうちに、にごった感じの音になった。
			C8	速く鳴らすとだんだん1つの音のように聴こえてきた。
○同時に 18 本（クラスの半分）の音を重ねる	T5	じゃあ一緒にやったらどうか？ ♪	C9	なんか、悲劇っぽい。
	T6	いっぱい音が重なるからにごって聴こえると言う人もいますので、音を減らしてみよう。 ♪	C10	最初やった時と違う。
			C11	音が真ん中に集まって、その後、さっきと同じでにごっていた。
			♪4 耳を澄まして、よく聴いている。	
○10本の音で重ねる（2回）	T7	どうでしたか？	C12	いい音が出そうだね。
	T8	重ねる数は同じでも、鳴らす音が違うと雰囲気が違うのかな。もう少し、音を減らしてみます。 ♪	C13	音がこもるような感じ。
			C14	やっぱり音を減らしてもにごっているんだけど、別々の音がわかるような気がする。
			C15	音が違うと感じが違う。
○音を限定して重ねる	T9	先ず、赤いシール（Iの和音）が貼ってある人からやります。どうなるでしょう。 ♪	C16	バスのボタンの音みたい。
			C17	にごっていないくて、すべての音がわかる。
			C18	すっきりした。
	T10	青いシール（IVの和音）の人の音を聴いてみます。 ♪	C19	低くなった感じがする。
			C20	さっきは、完全に混ざっていなかったから全部の音が分かったけど、今回は似たような音だったから、よく分からなかった。
	T11	黄色のシール（Vの和音）の音を聴いてみます。 ♪	C21	あ！いい！
			C22	さっきと違う感じ。
			C23	やさしい感じ。
	T12	緑色のシール（V <sub>7</sub> の和音）の音を聴いてみます。 ♪	C24	なんか1こ足りない感じ。
			C25	中途半端な感じ。
	T13	黄色と緑のシール（VとV <sub>7</sub> の和音）の音を聴いてみます。 ♪	C26	3つ聴こえるのに、1こだけすごく聴こえてくる音がある。
			C27	一こだけ低いのがあったのに、感じが違う。
			♪5 和音の響きの違いを感じ取る。	
○ピアノで和音進行を弾く	T14	いくつか和音をつなげて弾いてみるよ。どんな感じがするかな？ ♪	C28	1つでも2つでも音が変わると、変わった方向に音の高さが変わっていくように感じる。
			C29	いろんな音が混ざっていてよくわからない。
○ワークシートの記入	T15	和音の響きを聴いて、気がついたことや発見したことを書きましょう。	W1	全部合わさったときの音は、悲劇的だった。VとV <sub>7</sub> が似ていた。
			W2	それぞれの音の個性みたいのがでていた。

### (3) 授業の分析

#### ①「音の重なり」を軸とした題材展開の有効性

3つの音が重なると、どういう響きになるのかを体感した。音の重なりによる響きに耳を傾けることができるようになり(♪4)、さらに響きの違いを感じ取るようにもなってきた(♪5)。また、次の深める活動では、歌や楽器の音色が重なったときの響きに耳を傾けて、合唱や合奏を行うことができるようになった。そして、音の重なりに着目しながら、全体のバランスや強弱、音色などにも気をつけるようになってきた。さらに、拡げる活動では、それまでに感じ取ってきた音の重なりによる響きのよさを表現活動に生かしたり、音楽を聴くときの手がかりにしたりして、オーケストラによる音の重なりの変化や曲全体の雰囲気の違いを感じ取れるようになった。これは、音の重なりによる働きやそのかわりについての学習の積み重ねにより、響きのよさや美しさを感じ取る力が育ったからだと見える。

#### ②子どもの表現の変容（気づく活動での実際）

○音の重なりに興味をもつ

トーンチャイムそのものが、子どもたちの興味をひきつけたことで、音そのものに関心をもたせることができた(C1~4)。やわらかい音色であるため、音の重なりに興味をもち、じっくりと耳をすませ、音をよく聴こうとする姿勢が自然とできた(♪4)。また、この聴く姿勢はその後の活動にも結びついた。

○響きの心地よさを感じ取る

やわらかい音色でありながら、たくさんの音が混ざりあった18本のトーンチャイムを聴いたとき「音が重なってくると混ざった感じになる(C6)」「にごった感じになる(C7)」など感じていた。次に、10本に減らしても「こもる感じ(C13)」と感じていたが、3本にすると「すっきりした(C18)」と響きの心地よさを感じ取っていた。これが、音の重なりによる響きの心地よさに関心を示す出発点となった。

○音の重なりによる響きの違いを感じ取る

I・IV・V・V<sub>7</sub>の和音を聴いたとき、「すっきりした(C18)」「低くなった感じ(C19)」「やさしい感じ(C23)」「中途半端な感じ(C25)」など、それぞれの和音の響きの変化をよく感じ取っていた。また、ワークシートに記述された「それぞれの音の個性みたいのがでていた(W2)」からわかるように、それぞれの和音の響きの違いを感じ取ることができたのだと考えられる。

#### ③教師のかかわり

○子ども同士の思いをつなげる支援

「何か感じたことがありますか(T4)」の発問から「一つの音のようになってきた(C8)」という子どもの反応を受け、「一緒にやったらどうかな?(T5)」とつなげている。このように、子どもの思いを受け止めて発問をし、また次の子どもの発言を受けて授業を進めることにより、子ども同士のつながりをつくった。この繰り返しにより主体的に授業に参加するようになり、最後まで意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

○子どもの思いを音楽表現につなげる支援

I・IV・V・V<sub>7</sub>の和音の構成音ごとに色の違うシールをトーンチャイムに貼っておくことで、演奏をする子どもが迷うことなく和音を鳴らすことができた。また、聴いている子どもたちも和音の響きの違いをしっかりと聞き比べることができたということが子どもたちの発言(C16~27)からわかった。また、和音を色で区別したことで、感じ取った和音の響きと和音記号、和音の名称などへつなげる手立てとなった。



## 4 研究の実際Ⅱ（曲想を感じ取って表現を工夫しよう 中学1年生）

題材目標：旋律の特徴や歌詞の内容から曲想を感じ取り、表現を工夫する。

響きのある声で、曲想を生かした表現をする。

### （1）題材の計画

#### ①題材の軸となる音楽の諸要素

題材目標からねらいを焦点化し、音楽の諸要素の中から「曲想」を軸とした題材展開を考えた。

#### ②教材の選択

○気づく活動・・・日常生活でよく耳にする曲(アニメ・ドラマの主題歌など)数曲（鑑賞）

音楽がリズム、旋律などの音楽の諸要素の働きによって成り立っているということに着目させるとともに「聴く」ことに集中するように、クイズ形式で鑑賞し、音楽の諸要素の効果的な働きに気づいてほしいと考えた。

○深める活動・広げる活動・・・「青春の1ページ（金沢智恵子作詞/橋本祥路作曲）」（表現）

歌詞の内容がわかりやすく、自分の生活と結びつけて心情をイメージすることができる。この教材で、旋律の動きと歌詞の思いとのかかわりを感じ取らせたいと考えた。合唱コンクールのクラスの自由曲。

### （2）授業の実際

#### ①題材展開の概要

時	主な学習活動（「曲想」を意識した活動）	◎教師の支援 ◇子どもの姿 <b>音楽の諸要素の広がり</b>	教材
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ピアノの1音だけで弾いた旋律のリズムから、曲当てクイズをする</li> <li>○なぜすぐわからないのか考える</li> <li>○曲のサビ当てクイズをする</li> <li>○旋律の変化や曲の構成について話し合う</li> <li>○「青春の1ページ」を鑑賞し、旋律の変化や曲の構成について話し合う</li> <li>○曲全体をABCの3つに分け、それぞれの雰囲気の違いを感じ取り、ワークシートに記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎身近な曲の旋律のリズムのみを演奏する</li> <li>◇楽しむとともによく<b>リズム</b>を聴いていた</li> <li>◇同じ音だから分らないと気づいた</li> <li>◇<b>旋律</b>の必要性を感じ取ることができた</li> <li>◎身近な曲を聴かせ、サビの部分で手を挙げさせ、雰囲気の違いを感じ取らせる</li> <li>◇サビの前…<b>だんだん強くなる、リズムが盛り上がる、サビに入る前にためがある</b></li> <li>サビ…<b>雰囲気やリズムが変わる 題名と同じ歌詞</b>が入っていることが多い</li> <li>◎身近で聴く曲と教材曲をつなげる</li> <li>◇歌詞や旋律から、<b>雰囲気の違い</b>を記入した</li> </ul>	身近で聴く曲、数曲（鑑賞） 青春の1ページ
2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一斉で音取りをする</li> <li>○パート練習をする</li> </ul>	◎音取りをしながら、響きのある声の出し方について意識させる	
4 ( <b>具体的実践</b> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通して歌う</li> <li>○ABCの雰囲気の違いを話し合う</li> <li>○Bの部分の表現を工夫する(強弱・盛り上がり・歌詞の意味からの表現方法など)</li> <li>○録音をする</li> <li>○自分の演奏を振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎2時間目のワークシートからABCの<b>雰囲気の違い</b>を取り上げ、投げかける</li> <li>◎ワークシートからBの部分(曲の中間部)で感じたことを模造紙にまとめ、紹介する</li> <li>◎模造紙に記入されていることを取り上げ、話し合いながら、どのように<b>表現の工夫</b>をするよいか考えさせながら進める</li> <li>◇話し合ったことをもとに表現しようとした</li> <li>◇<b>曲の流れ、盛り上がり</b>を感じ取って、表現するようになり、歌声が変わってきた</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Bの部分の表現を工夫する</li> <li>○録音をする</li> <li>○自分の演奏を振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇言葉に着目し、<b>言葉にあった表現の工夫</b>をした</li> <li>◇自分の演奏に興味を示し、よく聴いていた</li> <li>◇課題を見つけて、ワークシートに記述した</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通して歌う</li> <li>○もっと良くした方がよいところを話し合う</li> <li>○出だしの歌い方の工夫をする</li> <li>○一番伝えたい部分の表現の工夫をする</li> <li>○録音をする</li> <li>○自分の演奏を振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎前時のワークシートから、B以外の部分に着目している記述を取り上げ、紹介する</li> <li>◇<b>出だしの言葉</b>を大事に歌った</li> <li>◎<b>プレス</b>をそろえることを支援する</li> <li>◎一番伝えたい言葉を考えさせる</li> <li>◇<b>歌詞の内容から感じ取ったこと</b>を表現した</li> <li>◇<b>全体のバランス</b>を考え<b>響きのある声</b>で歌っていた</li> <li>◇表現の工夫により、変わってきた自分たちの演奏をよく聴き、課題をもった</li> <li>◎クラスの練習でもみんな、知恵を出し合ってやってほしいと伝える</li> </ul>	

②具体の実践（深める活動）

主な活動	教師のかかわり	子どもの表現
	T 教師の発問	C 子どもの発言 W ワークシートの記述 ♪ 表現の変容
○前時のワークシートの確認	T1 どこが雰囲気が変わるの？	C1 Bだと思う。
○迫力を出すための工夫	T2 今日は、Bの部分を取り上げて、味付けをします。みんなが書いたものを書き上げました。（模造紙を出す）	前時のワークシートのBの記述から W1 意思が強く表れている感じ。 W2 だんだん盛り上がる。 W3 だんだんクレッシェンドされている。 W4 リズムが速くなって迫力がある。 W5 男声と女声の重なりがすごくきれい。
	T3 どうして、リズムが速くなるって、感じたのだろう？歌ってみよう。	♪ 1 問題意識をあまりもたないで、ただ歌っている。
	T4 どうして迫力を感じたのだろう？	C2 同じ音がつながっているから。
	T5 テンポが速くなる、同じ音が繰り返される、この雰囲気をどういう風に歌ったらいいかな？	C3 ちょっと暗め。 C4 強め。
	T6 強め、暗め、2つ出たよ。まず、暗めでやってみよう。	♪ 2 暗めに歌うと音が下がる。 変な感じだと友だちとしゃべる。
	T7 どんな風に歌ってみた？	C5 どうやっていいかわからない。 C6 声を小さくした。 C7 声を低めにした。
	T8 声小さくなったね。次、強く歌ってみよう。	♪ 3 背中を伸ばして、しっかり歌っている ので、音程もよく取れている。
	T9 すごく変わったね。弱いと強いところをこんなに区別して歌えるんだね。どうだった？どっちが良かった？	C8 強めがよい。 C9 しっかり声をだしたほうがよいから。
	○語りかけるように歌う工夫	T10 『自分の夢を自由にもっていきたい』とか『意思が強く表れているような感じ』とか、『聴いている人に語りかけているような感じ』とか、書いてくれた人がいます。それをどんな風に歌うといいかな？
○録音	T11 一つ一つの言葉をはっきり発音させて、「求め続けたい」から弾んで歌ってみよう。	♪ 4 体を弾ませて歌っている。 友だちと確認しながら歌っている。
	T12 どうかな？	C11 全部やったらおかしい。 C12 「何か」はつなげたほうがよい。 C13 「夢の」はつなげたほうがよい。 C14 文章的に考えて、弾ませたほうがよいところとつなげたほうがよいところがある。 C15 意味を考えた方がいいよ。
	T13 聴いている人に語りかけている感じを表すのにはどうすればよいだろう？まず、歌ってみよう。	♪ 5 全員が意欲的に歌い始める。 ♪ 6 歌詞に合わせて、弾んだ感じとなめらかな感じを表現している。
○鑑賞	T14 弾んだ感じとちょっとつなげたいところ、強くするところをみんなと考えたので、そこに気を付けて歌ってみましょう。その後、聴きます。♪	C16 バランスが悪かった。 C17 もっと流れる感じがよい。 C18 雰囲気が出ていた。
	T15 どうだった？	
	T16 工夫してみてどんな感じがしたか、どんな変化があったか書きましょう。	W6 表現を工夫したら良くなった。 W7 意見を出し合って、いい合唱になってきた。 W8 言葉の意味を考えて、強弱もつきたい。

### (3) 授業の分析

#### ①「曲想」を軸とした題材展開の有効性

初めて混声三部合唱に出会う子どもたちが、曲から感じ取ったことを大事にし、その思いをもとに表現を工夫する活動を行った。感じ取った曲の雰囲気を実際にみんなで歌い、さらにその雰囲気や思いをどう表現しようか考え、再び表現し録音をする活動を繰り返すことで、自分たちが主体となって合唱曲をつくっているという気持ちになっていったと考える。これは、子どもが興味をもつ身近な曲を聴くことで、音楽への興味、関心を高め、楽しみながら曲想の変化を感じ取った気づく活動が、深める活動に生かされ、思いを深めようとする気持ちにつながったのだと考えられる。また、全曲を通して曲想を考えるのではなく、曲を三つの部分に分け、中間部を中心に学習を進めた。一部分の表現を工夫することで、それ以外の部分にも関心を示し、もっと工夫したいという思いにつながった。そしてその気持ちがクラスでの合唱練習につながった。このように、曲想を軸として表現の工夫をすることで、合唱の響きのよさや美しさを感じ取り、自分たちの合唱をつくり上げる楽しさを得ることができたといえる。

#### ②子どもの表現の変容（深める活動での実際）

##### ○問題意識の高まりと音色の変化

曲の雰囲気を表現させたいと考え、「雰囲気をどういう風に歌ったらよいか？ (T5)」と発問すると「暗め (C3)」「強め (C4)」という意見が出たので、その違いを区別して歌おうとした (♪2,3)。直後に「すごく変わったね (T9)」という教師の言葉がきっかけとなり、音色が変わり、音程が安定し、しっかりと歌うようになった(♪3)。また、その後クレッシェンドにも着目するなど、意識の高まりとともに強弱を伴いながら、さらに音色が変化し、歌う表情に意欲が感じられるようになった。

##### ○歌詞の意味を考えた表現の工夫

ワークシートの中から「意思が強く表れている感じ(W1)」という記述を取り上げ、どのように歌い方を工夫するとよいか話し合くと、「1つ1つ弾んだ感じで(C10)」という提案があった。実際に歌い、さらにどうしたらその雰囲気や思いを表現できるのかを考えさせると、「文章的に考えて(C14)」「意味を考えた方がよい (C15)」など、弾ませて歌うという工夫だけではなく、歌詞の内容を考えた工夫をするようになってきた。このことから、軸がぶれない教師の発問がきっかけとなり、音楽への思いを深めることにつながった。その後、自分たちの思いを表現しようという気持ちが少しずつ高まってきて全員が意欲的に歌い始め(♪5)、話し合ったことを生かして歌唱表現につなげようとする姿がみられた (♪6)。

##### ○自分たちの演奏の録音と表現の振り返り

自分たちの演奏を聴くことにより、どこに課題があるのか分かり (C16,17)、表現の効果や足りない部分を客観的に感じ、それが次の課題にもつながった。また、表現を工夫すると合唱の雰囲気が変わることを感じ取り、上達する自分たちの合唱に満足感をもったことがワークシート(W6,7)からわかった。

#### ③教師のかかわり

##### ○子ども同士の思いをつなげる支援

曲に対する子どものイメージを大切にし、前時にワークシートに記述したこと (W1~5) をもとに話し合い、演奏の工夫をするための着目ポイントを示した。子どもたちの思いを大事にすることで、自分たちが表現の工夫をし、それによって合唱が変わってきたと実感することができるようになった。最初はあまり関心を示さなかった子どもも少しずつやる気を見せるようになり、表現の工夫に興味をもって参加するようになったことで、全体の声の響きがよくなってきた (♪5)。

##### ○子どもの思いと音楽表現をつなげる支援

自分たちの合唱への思いが深まると、その思いを表現させるために、技能的な面での支援が必要になった。子どもの思いにそうように技能的な支援をすることで、歌わされているのではなく、自分たちの表現に必要な技能の支援をさらに求めるようになり、これがより上達したいという意欲につながった。

## 5 研究の実際Ⅲ（クラシックギターの柔らかい音色を味わおう 中学2年生）

題材目標：クラシックギターの音色に関心をもち、表現を工夫する。

クラシックギターの柔らかい響きや音色を感じ取って表現する。

### （1）題材の計画

#### ①題材の軸となる音楽の諸要素

題材目標からねらいを焦点化し、音楽の諸要素の中から「音色」を軸とした題材展開を考えた。

#### ②教材の選択

○気づく活動・・・「アルハンブラの思い出（タルレガ）」「前奏曲11番（タルレガ）」（鑑賞）

初めからクラシックギターの弾いている映像をみせるのではなく、弾き方をイメージさせ、その弾き方の違いによる音色の聴き比べをした。2回目は映像を見て、音色と奏法を確かめる活動を行った。

○深める活動・・・「エーデルワイス（R. ロジャース）」（表現）

二重奏の楽譜を用意し、ギターの音色の響きを友だちと聴き合いながら、簡単にアンサンブルを楽しむことができるように考えた。

○広げる活動・・・「サンバースト（アンドリューヨーク）」（鑑賞）

ゲストティーチャーによる演奏。近くでギターの音色のよさや美しさを体感することで、クラシックギターを身近に思い、もっとギターを弾きたいという意欲も引き出したと考えた。

### （2）授業の実際

#### ①題材展開の概要

	時	主な学習活動（「音色」を意識した活動）	◎教師の支援 ◇子どもの姿 <b>音楽の諸要素の広がり</b>	教材
気づく活動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自由にギターを弾く</li> <li>○気がついたことを発表する</li> <li>○DVDの映像なしで演奏を聴き、奏法や音色の違いをイメージする</li> <li>○DVDで演奏を視聴し、奏法や音色の違いを確認する</li> <li>○ワークシートに記入する</li> <li>○ギターの構造の説明をする</li> <li>○構え方の確認する</li> <li>○右手の動きの練習をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自由に弾くことで、ギターの様々な特徴に関心をもたせる</li> <li>◎子どもから出た疑問をもとに、ギターの世界や形について説明する</li> <li>◎音色に着目させるため、映像は流さないで、イメージをふくらませる</li> <li>◎音色に着目させつつ、奏法の違いにも気づかせるため、映像つきで鑑賞させる</li> <li>◇<b>奏法の違いにより、音色が違う</b>ことに気がつき、記入した</li> <li>◇<b>音を聴き合い</b>ながら練習した</li> </ul>	アルハンブラの思い出（鑑賞） 前奏曲十一番（鑑賞）
深める活動	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開放弦の音色を聴く</li> <li>○左手の押さえ方を知る</li> <li>○ド～ファの音階を練習する</li> <li>○「かえるのうた」のドレミファミレドの練習をする</li> <li>○音色を意識して練習をする</li> <li>○お互いのギターの音色を聴き合いながら練習をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎奏法、構え方、音階など基本的なことをおさえる</li> <li>◎音色を聴き合いながら、響きのよい奏法を考えさせる</li> <li>◇<b>音を聴き合い</b>ながら、練習した</li> <li>◎響きの良い子どもに着目し、良い響きを出すための奏法について全体に投げかけ、考えさせる</li> <li>◇響きがよくなってきた</li> </ul>	かえるのうた
活動	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちが求める音色と奏法を話し合う</li> <li>○ド～オクターブ上の下の音階を練習する</li> <li>○エーデルワイスの上のパートの練習をする</li> <li>○ペアで聴き合う</li> <li>○エーデルワイスの下のパートの練習をする</li> <li>○アンサンブルをする</li> <li>○自分の演奏を振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎音色と奏法について問題意識を持たせ、自分たちがめざす音色と奏法を確認させる</li> <li>◇助け合いながら、練習していた</li> <li>◇<b>お互いに聴き合い</b>ながら、練習した</li> <li>◇簡単にできそうなので、前向きに取り組んでいた</li> </ul>	エーデルワイス サンバースト
広げる活動	4 (具体的実践)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音色と奏法の確認をする</li> <li>○ゲストティーチャーの音色と奏法を聴き比べる</li> <li>○ゲストティーチャーのエーデルワイスを鑑賞する</li> <li>○各自で練習をする</li> <li>○ゲストティーチャーとアンサンブル①する</li> <li>○ゲストティーチャー「サンバースト」の演奏を鑑賞する</li> <li>○ゲストティーチャーとアンサンブル②する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎前時のワークシートを取り上げ、伝える</li> <li>◎めざす音色に着目させる</li> <li>◇音色が変わってきた</li> <li>◇ゲストティーチャーの<b>音色に重ねあわせ、響きに気をつけて演奏</b>した</li> <li>◇音色や奏法だけではなく、<b>強弱・曲想の</b>などにも注目しながら聴いていた</li> </ul>	サンバースト（鑑賞）

② 具体の実践（拡げる活動）

主な活動	教師のかかわり	子どもの表現
	T 教師の発問	C 子どもの発言 W ワークシートの記述
○音色と奏法の確認	T1 みんなのワークシートを見せてもらいました。ゆっくりやっの方が響くとか、一つ一つ丁寧に弦をはじくとよい音になったか書いてありました。今日は、ゲストティーチャーがいろいろ披露してくれますから、じっくり研究してください。	前時のワークシートの記述から W1 ゆっくりと弾き、弦を響かせよう意識した。 W2 大きく響きを出すために一音一音しっかりはじきたい。 W3 様々な演奏をやってみるとどうすれば響きがよくなるかわかった。
○ゲストティーチャーによる、音階の演奏（2回）	T2 ゲストティーチャーの右手の場所と左手の動きをよく見てください。深みのある音がどっちな自分たちでよく考えながら聴きましょう。	♪ 1 問題意識をもち、よく考えながら聴いている。 C1 すごい、きれい。
○音色、奏法の聴き比べ	T3 右手はどこを弾いていた？	C2 ここ、サウンドホール。 ♪ 2 サウンドホールを意識して練習する
○ゲストティーチャーとアンサンブル①	T4 上を演奏する人だけ弾いて、下を演奏する人は聴いていてください。ゲストティーチャーに伴奏をしてもらおうと、こんな音色になります。	♪ 3 下のパートを演奏する人は、ゲストティーチャーの音色に合わせる感じで、やさしく音色を響かせている。
	T5 すてき。	
	T6 今度は、ゲストティーチャーがきれいなメロディーを弾いてくれます。上を演奏する人は、聴いていてください。	♪ 4 だんだんギターの音色に響きが出てくる。
	T7 みんな、上手になったね。お互いに聴きあって、自分が選んだほうを演奏しましょう。	♪ 5 ゲストティーチャーの伴奏をよく聴き、テンポを合わせている。 ♪ 6 手の動きを良く見ている。
○ゲストティーチャーによる演奏（サンバーストの鑑賞）	T8 リズミカルな部分とメロディーがきれいな部分が対照的になっていて、聴いていてすごくおもしろいと思います。その違いも聴きわけながら、楽しんで聴いてください。	C3 音色がきれいだった。 C4 手の動きが速かった。 C5 左手がすごかった。 C6 僕たちは（ネックの）上の部分しか使っていなかったけど、下の方も使っていて、すごかった。 C7 細かい音が1つ1つ聴こえた。
○感想	T9 感想どうぞ。	
○ワークシートの記入	T10 みんなのめざす音色だっただね。それでは、感想を書いてください。	W4 透き通った音がする。 W5 細かな強弱もあって、自分たちの一本調子の音楽とは違う。 W6 心を込めて身体全体で演奏している。 W7 その曲に対する思いが詰まっていたいい気分になった。
	T11 ゲストティーチャーの伴奏、よく耳に残しておいてね。	
○ゲストティーチャーとアンサンブル②	T12 最後にゲストティーチャーと一緒にアンサンブルしましょう。	♪ 7 音が柔らかくなってきて、深みが出てきている。 ♪ 8 ていねいに響きを感じながら弾いている。

（3）授業の分析

① 「音色」を軸とした題材展開

「かえるのうた」や「エーデルワイス（簡単なハモリ）」のような簡単な曲で、ギターを響かせ、よい音色を出すにはどうすればよいか工夫しながら取り組む活動を行った。この音色への着目は、クラシックギターの美しい音色を演奏するために、どのような奏法をしているのかをイメージして鑑賞する、気づく活動からつながったと考えられる。ゲストティーチャーの演奏を聴いた後のワークシートでも「透き通った音がする（W4）」「細かな強弱もあって、自分たちの一本調子の音楽とは違う（W5）」のよう

に、音色に着目するとともに、音楽表現のよさも感じ取れるようになった。その後のゲストティーチャーとのアンサンブルでは、ギターの音色に深みが出てきて柔らかい音色になってきた（♪7.8）。ギターの音色のよさや美しさを感じ取り、自分なりにギターの楽しさを得ることができたのだと考える。

## ②子どもの表現の変容（広げる活動での実際）

### ○ポイントを絞って聴く

ゲストティーチャーに、2回音階を弾いてもらい聴き比べをした。「深みのある音がどちらかよく考えて聴きましょう（T2）」と発問すると素直に「きれいだ（C1）」とうっとりしながら聴いていた。また、「右手はどこを弾いていた？（T3）」と発問すると「サウンドホール（C2）」で弾いていることに気づき、自分たちがめざしている弾き方・音色を再確認していた。教師とのやり取りの中で、ポイントを絞った聴き方ができるようになり、その後の個人練習では、サウンドホールで弾くことや音色の響きを意識した活動がみられるようになった（♪2）。

### ○音色の変化

前時の深める活動では、まず楽譜通りに弾くこと、よい響きを出すことが活動の中心になり、アンサンブルを楽しむまでにはいかなかった。しかし、ゲストティーチャーが演奏したやさしい音色を聴いた後、一緒に「エーデルワイス」のアンサンブルを行うと、その音に重ね合わせて演奏しようとするようになり、音色が変わってきた（♪3~6）。これは、きれいな音色を感じ取り、その音に自分たちの音色をできるだけ近づけさせよう意識したからだと考える。また、「演奏をしない時は聴きましょう（T4.6）」「お互いに聴きましょう（T7）」という教師の声掛けがよい音色を聴こうとする意識を高めた。

### ○曲想への思いの広がりや表現活動の変化

ゲストティーチャーによる演奏を聴くと、「音色がきれいだった（C3）」「左手がすごかった（C5）」など、ねらいである音色や奏法に着目する発言が多かったが、ワークシートを見ると「細かな強弱があった（W5）」「心をこめて身体全体で演奏している（W6）」「その曲に対する思いが詰まっていた（W7）」など、音色や奏法を手がかりにしながら曲全体のよさや美しさを味わって聴いていた。感じ取る力が育ち、曲想への思いも広がってきたことがうかがえる。さらに、ゲストティーチャーとの2回目のアンサンブルでは、「音に深みが出てきている（♪7）」「ていねいに響きを感じながら弾いている（♪8）」というように、感じ取ったことを生かして自らの思いを表現活動につなげようとする姿がみられた。

## ③教師のかかわり

### ○子ども同士の思いをつなげる支援

音色や奏法について、ワークシートに記述したこと（W1.2.3）や子どもの発言を取り上げ、それをもとに全体に投げかけ、よりよい響きを出すための工夫の観点を示した。その工夫の観点を手がかりにして、主体的に活動するようになり、自らの思いをもって表現しようとするようになった。また、友達同士でペアを作って練習するようにした。お互いの音色を聴き合ったり、弾き合ったりすることで、音色や奏法を確認しあうことができ、それを演奏に生かすことができた。

### ○子どもの思いと音楽表現をつなげる支援

練習を進めると、より美しい音色を響かせて上手に演奏したいと願うようになった。その時に、適切な場面で必要に応じて技能の支援を行った。このような技能の支援により、ギターを弾かされているのではなく、自分からよい音色を求めてギターを演奏するようになり、あきらめずに最後までギターに取り組む姿が見られた。

## Ⅲ研究のまとめ

### 1 授業からみえてきたこと

#### （1）感じ取る力が育つ題材展開

##### ①題材全体の授業の方向性が明確になる「気づく活動」

子どもの実態にそった学習を考えたので、どの授業でも楽しさが盛り込まれた活動となった。そのた

め、これから始まる授業への期待感が高まった。また、聴き比べたり表現の違いを感じたりする活動により、題材の軸となる音楽の諸要素に自然と気づくことができた。それにともなって、子どもが授業の中で軸となる音楽の諸要素に自然と的を絞った聴き方ができるようになった。気づきを手がかりにして、学習を進めることで、何を聴き、何を感じ取るのかが明確になり、その後の深める活動や広げる活動のもとになる重要な活動となった。また、この活動で気づいたことを振り返りながら学習を進めることが、学習の流れをつなげる役目にもなった。これらのことから、諸要素に気づく活動を題材の導入期に行うことによって、音楽のよさや美しさを感じ取るために必要な聴き方、感じ方ができるようになり、授業の方向性が明確になることが明らかになった。

## ②教師の支援が重要な鍵となる「深める活動」

### ○ワークシートの記述を取り上げ、投げかける支援

授業の始めに、ねらいにそったワークシートの記述を取り上げ、全員に投げかけた。そのたびに、自分や友だちのワークシートを見比べる姿が見られた。この支援は、前時の振り返りと本時の学習をつなげる、本時の見通しをもち学習の方向性を示す、子ども同士の思いをつなげるという三つの役目があることがわかった。また、どんなことを感じ、どのように工夫したいかなど、子どもの思いを記述することを中心としたワークシートを作成することによって、一枚のワークシートから学習の道筋がわかるものとなり、さらに自己評価にもつながることが明らかになった。

### ○話し合いでの子どもの言葉を取り上げる支援

話し合いで取り上げた子どもの言葉をみんなにわかる音楽的な言葉に教師が置き換えて伝え、表現に生かせるように投げかけたことにより、音楽表現が変わった。教師がねらっていることを教師の言葉でただ伝えるより、子どもたちの言葉をもとにしながら授業を進めたため、自分たちが主体となって授業を進めているという感覚をもったと考える。発言が取り上げられたことで、音楽のよさや美しさを求めるために主体的に活動する姿が見られた。また、題材の軸となっている音楽の諸要素を意識した教師の発言が、ねらいへの方向性を示す役目にもなったことが明らかになった。

### ○適切な場面での技能の支援

子どもたちが友だちと話し合ったり、聴き合ったりする活動を通して、曲への思いが深まってくると、自らが課題をもち、もっと上手になりたいとか、きれいな演奏を心がけたいなどの意欲の高まりが見られた。また、一人一人の思いの高まりとともにそれを表現するために必要な技能を子どもが求めてきたときに、その子の能力に応じた支援を行うことが効果的だった。そうすることで、自分の思いを表現するために意欲的に表現の技能を高め、音楽を楽しもうとする態度につながることが明らかになった。

## ③今後の学習や日常生活につながる「広げる活動」

音楽に対する一人一人の思いが高まってくると、気づく活動や深める活動で感じ取ったことを新たな表現活動に生かして、さらによい音楽表現を求めようとしたり、感じ取ったことを手がかりにして音楽を鑑賞したりする姿が見られた。このように、感じ取る学習の積み重ねにより、自分にとっての音楽のよさや美しさを一人一人がそれぞれの感じ方で味わうことができるようになった。これが、今後の学習活動や日常生活で音楽を楽しもうとする姿へつながり、さらに生涯にわたって、音楽に親しむ態度をはぐくむことにつながると期待される。

以上のことから、音楽の諸要素を軸とした題材展開を工夫することが、音楽のよさや美しさを感じ取る力を育て、音楽を生涯楽しむ態度の基礎をはぐくむ有効な手立てであるとわかった。

## (2) 評価とのつながり

音楽の諸要素を軸とする題材展開の工夫により、評価とのつながりも明らかになった。音楽の諸要素を軸とすることでねらいがより明確になり、教師がねらいにそった観点で子どもを見取るため、今まで見取りにくかった音楽的な感受が、音楽表現、発言、ワークシートなどから客観的に見取りやすくなった。

また、子どもの思いを大切にしながら活動を進めたことにより、自らの思いを実現させるために表現の技能を高めようとする姿が見られ、その変容も見取りやすくなった。

さらに、聴いて感じ取る、感じ取ったことを表現する、感じ取ったことを生かして味わって聴く、さらに表現を工夫するなど、音楽の諸要素を軸としながら表現と鑑賞の活動をかかわらせながら題材を展開することが、感じ取る力を育てることにつながるとわかった。

これらのことから、一つの題材で表現と鑑賞の領域を兼ねた活動を行うことが、効果的に感じ取る力を育て、同時に音楽科の評価の観点を偏ることなく見取れる有効な学習であることが明らかになった。

## 2 今後の課題

### (1) 効果的な教材の開発

表現と鑑賞を関連させて幅広く教材を選択してきたが、検証授業を通して、軸となる音楽の諸要素に気づかせるための効果的な教材の開発が、さらに必要だと感じた。今後は、子どもの実態をよく把握し、興味が高まる活動でありながら、よりねらいに迫れる教材の開発を図りたい。

### (2) 小・中9年間を見通した指導計画

音楽の諸要素を軸とした学習の積み重ねをすることにより、子どもは音楽の諸要素の働きやかかわり合いを知り、子どもの感じ取る力を高めることにつながる。一つの題材を検証した結果、音楽の諸要素が同じ学年や前後の学年と、どのように関連するか考慮した指導計画を作成する必要性を感じた。そのため、小学校、中学校9年間を通してどのように感じ取る力を育てるか、発達段階に応じた系統的な指導計画の開発を図りたい。

最後に研究を進めるにあたり、ご指導、ご助言をくださいました講師の先生方、また校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

### 【参考文献】

- 神原睦男 山本幸正「小・中学校における音楽科の学習内容及び指導法の改善に関する研究」  
東京都立教育研究所紀要 第41号 1997年
- 宮野モモ子 伊藤俊彦『小学校新学習指導要領Q&A～解説と展開～ 音楽編』教育出版 1999年
- 文部省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社 1999年
- 文部省『中学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社 1999年
- 大槻秀一 佐野靖 宮野モモ子『これからの中学校音楽ここがポイント』音楽之友社 2002年
- 高須一 金本正武『小学校音楽科の授業づくり 高学年編』明治図書出版 2005年
- 河邊昭子『学力の質的向上をめざす音楽科授業の創造』明治図書出版 2005年
- 吉富功修『音楽科重要用語 300の基礎知識』明治図書出版 2005年
- 財団法人音楽鑑賞教育振興会 研究開発部会編『音楽科では何を指導しているのか』  
財団法人音楽鑑賞教育振興会 2006年
- 音楽鑑賞教育 4月号～12月号  
財団法人音楽鑑賞教育振興会 2006年
- 高須一「子どもにとって学びがいのある音楽科授業を創造する」音楽鑑賞教育 5・9・11・1・3月号  
財団法人音楽鑑賞教育振興会 2006年・2007年
- 音楽鑑賞教育 1月号～3月号  
財団法人音楽鑑賞教育振興会 2007年
- 財団法人音楽鑑賞教育振興会 研究開発部会編『音楽科の「学び」を浮き彫りにした指導と評価の計画とは』  
財団法人音楽鑑賞教育振興会 2007年
- 財団法人音楽鑑賞教育振興会 研究開発部会編『音楽科の「学び」が見えてくる授業 その指導と評価』  
財団法人音楽鑑賞教育振興会 2007年

### 【指導助言者】

- |                               |        |
|-------------------------------|--------|
| 千葉大学教育学部教授                    | 宮野 モモ子 |
| 川崎市立小学校音楽教育研究会長（川崎市立片平小学校長）   | 大野 佳子  |
| 川崎市立中学校教育研究会音楽科部会長（川崎市立菅中学校長） | 森 美加子  |
| 川崎市総合教育センターカリキュラムセンター指導主事     | 川崎 靖弘  |